



開かれた未来へ。

筑波大学
University of Tsukuba

人文社会科学系の研究力把握 に向けた試み

人社系分野への研究支援と研究評価～グッドプラクティスを探る～

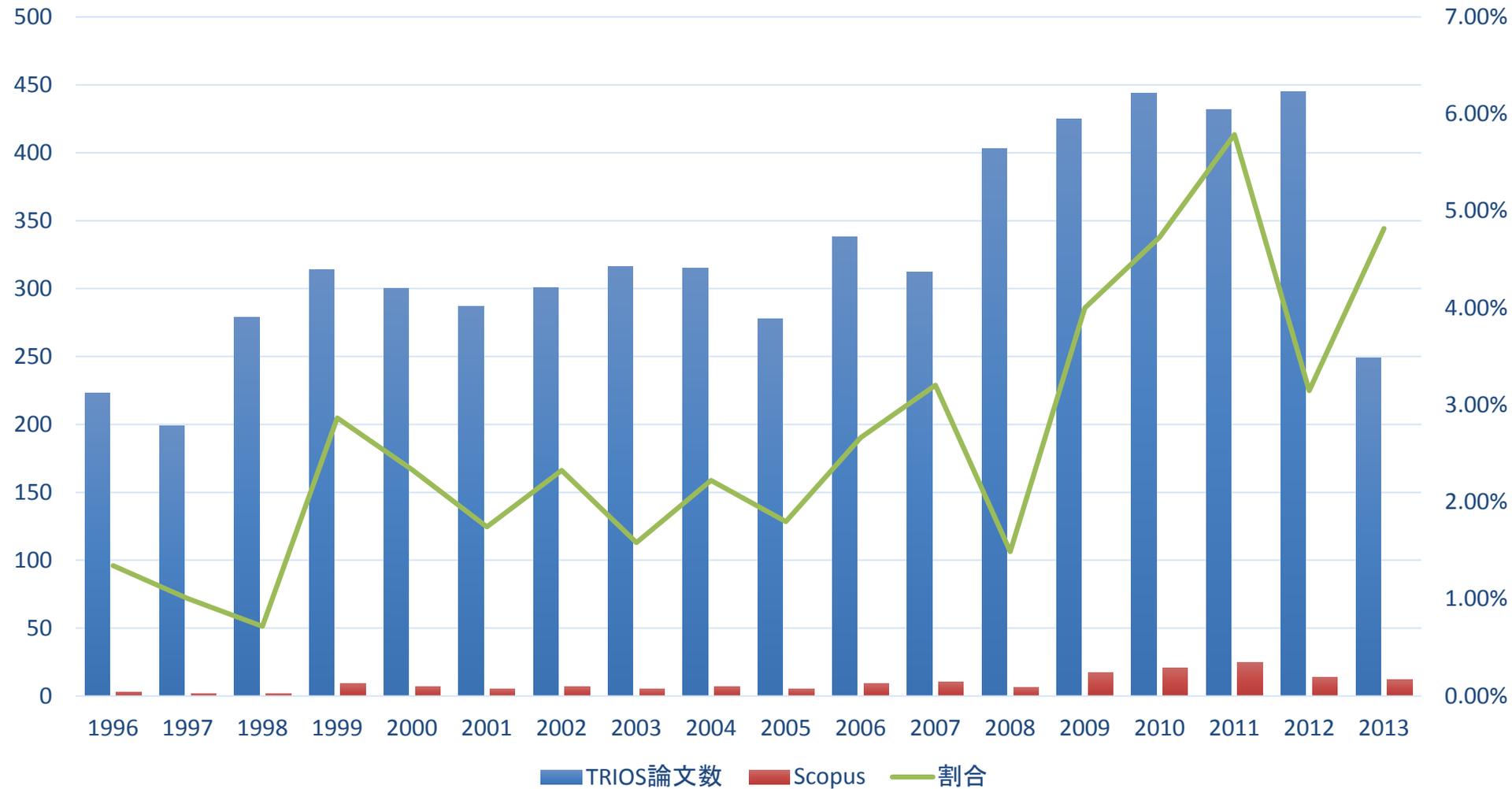
RA研究会セッション

2014.9.17 (於:北海道大学 学術交流会館)

森本行人(筑波大学URA)



TRIOS* vs Scopus* (Faculty of Humanities and Social Sciences, University of Tsukuba)

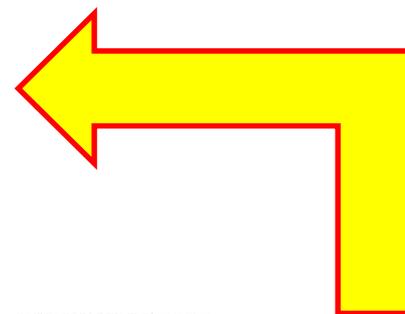


TRIOS: 筑波大学 研究者総覧
 Scopus: エルゼビア社 抄録・引用文献データベース

人文社会系の研究分野(科研費)



No	研究分野 (科研費)	No	研究分野 (科研費)
1	総合人文社会 地域研究 地域研究	29	社会科学 法学 公法学
2	総合人文社会 ジェンダー ジェンダー	30	社会科学 法学 国際法学
3	総合人文社会 観光学 観光学	31	社会科学 法学 社会法学
4	人文学 哲学 哲学・倫理学	32	社会科学 法学 刑事法学
5	人文学 哲学 中国哲学・印度哲学・仏教学	33	社会科学 法学 民事法学
6	人文学 哲学 宗教学	34	社会科学 法学 新領域法学
7	人文学 哲学 思想史	35	社会科学 政治学 政治学
8	人文学 芸術学 美学・芸術諸学	36	社会科学 政治学 国際関係論
9	人文学 芸術学 美術史	37	社会科学 経済学 理論経済学
10	人文学 芸術学 芸術一般	38	社会科学 経済学 経済学説・経済思想
11	人文学 文学 日本文学	39	社会科学 経済学 経済統計
12	人文学 文学 英米・英語圏文学	40	社会科学 経済学 経済政策
13	人文学 文学 ヨーロッパ文学	41	社会科学 経済学 財政・公共経済
14	人文学 文学 中国文学	42	社会科学 経済学 金融・ファイナンス
15	人文学 文学 文学一般	43	社会科学 経済学 経済史
16	人文学 言語学 言語学	44	社会科学 経営学 経営学
17	人文学 言語学 日本語学	45	社会科学 経営学 商学
18	人文学 言語学 英語学	46	社会科学 経営学 会計学
19	人文学 言語学 日本語教育	47	社会科学 社会学 社会学
20	人文学 言語学 外国語教育	48	社会科学 社会学 社会福祉学
21	人文学 史学 史学一般	49	社会科学 心理学 社会心理学
22	人文学 史学 日本史	50	社会科学 心理学 教育心理学
23	人文学 史学 アジア史・アフリカ史	51	社会科学 心理学 臨床心理学
24	人文学 史学 ヨーロッパ史・アメリカ史	52	社会科学 心理学 実験心理学
25	人文学 史学 考古学	53	社会科学 教育学 教育学
26	人文学 人文地理学 人文地理学	54	社会科学 教育学 教育社会学
27	人文学 文化人類学 文化人類学・民俗学	55	社会科学 教育学 教科教育学
28	社会科学 法学 基礎法学	56	社会科学 教育学 特別支援教育

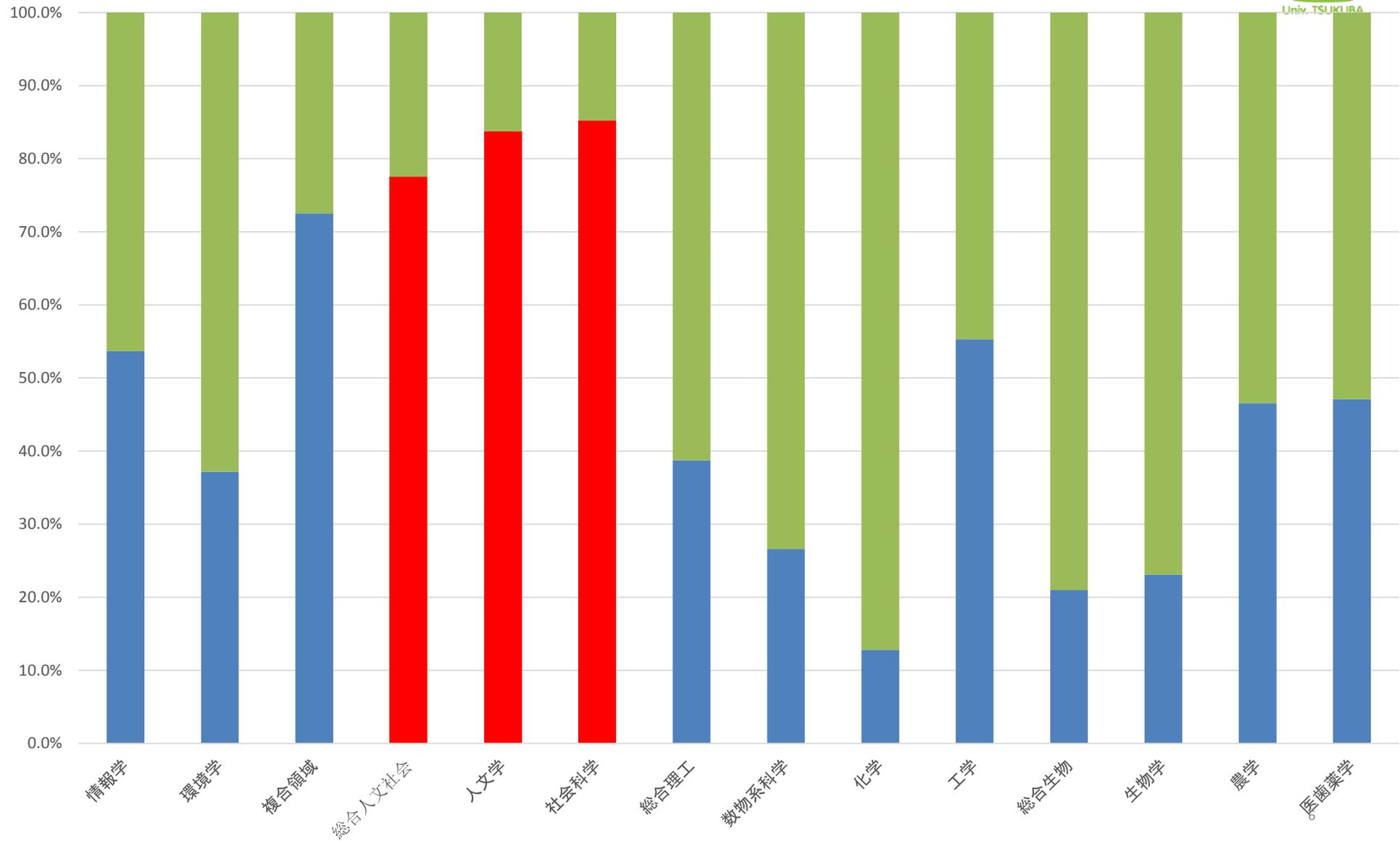


別表2 系・分野・分科・細目表
(1)平成26年度科学研究費助成事業 系・分野・分科・細目表

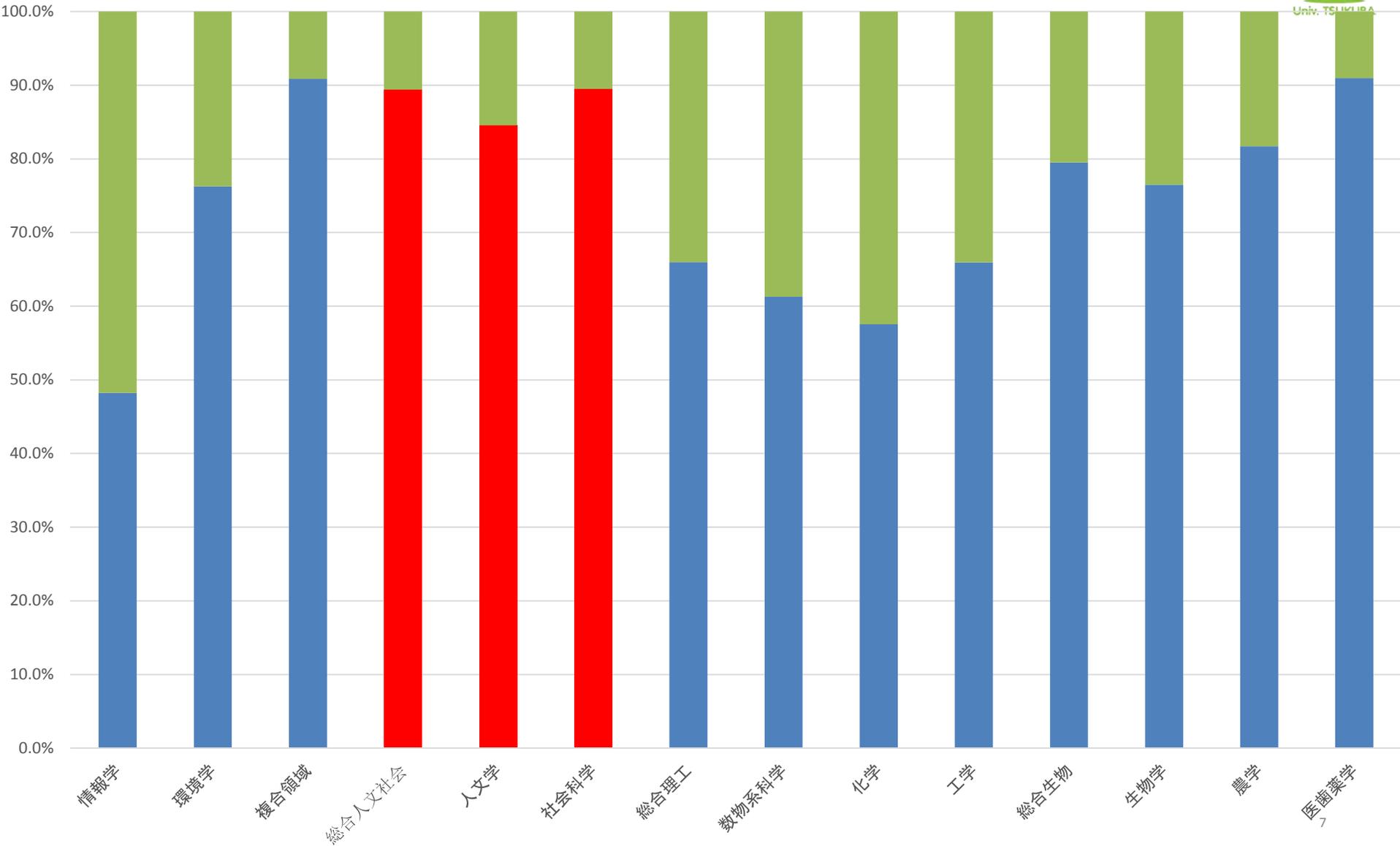
系	分野	分科	細目名	研究費	系	分野	分科	細目名	研究費
国 語 学	言語学	国語学	国語学	1000	国 語 学	言語学	国語学	国語学	1000
			国語学	1000				国語学	1000
			国語学	1000				国語学	1000
			国語学	1000				国語学	1000
			国語学	1000				国語学	1000
			国語学	1000				国語学	1000
			国語学	1000				国語学	1000
			国語学	1000				国語学	1000
			国語学	1000				国語学	1000
			国語学	1000				国語学	1000
文 学	文学	文学	文学	1000	文 学	文学	文学	文学	1000
			文学	1000				文学	1000
			文学	1000				文学	1000
			文学	1000				文学	1000
			文学	1000				文学	1000
			文学	1000				文学	1000
			文学	1000				文学	1000
			文学	1000				文学	1000
			文学	1000				文学	1000
			文学	1000				文学	1000

※JSPS (http://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/03_keikaku/data/h26/l/h26_koubo_06.pdf)

論文の日本語率



著書の日本語率

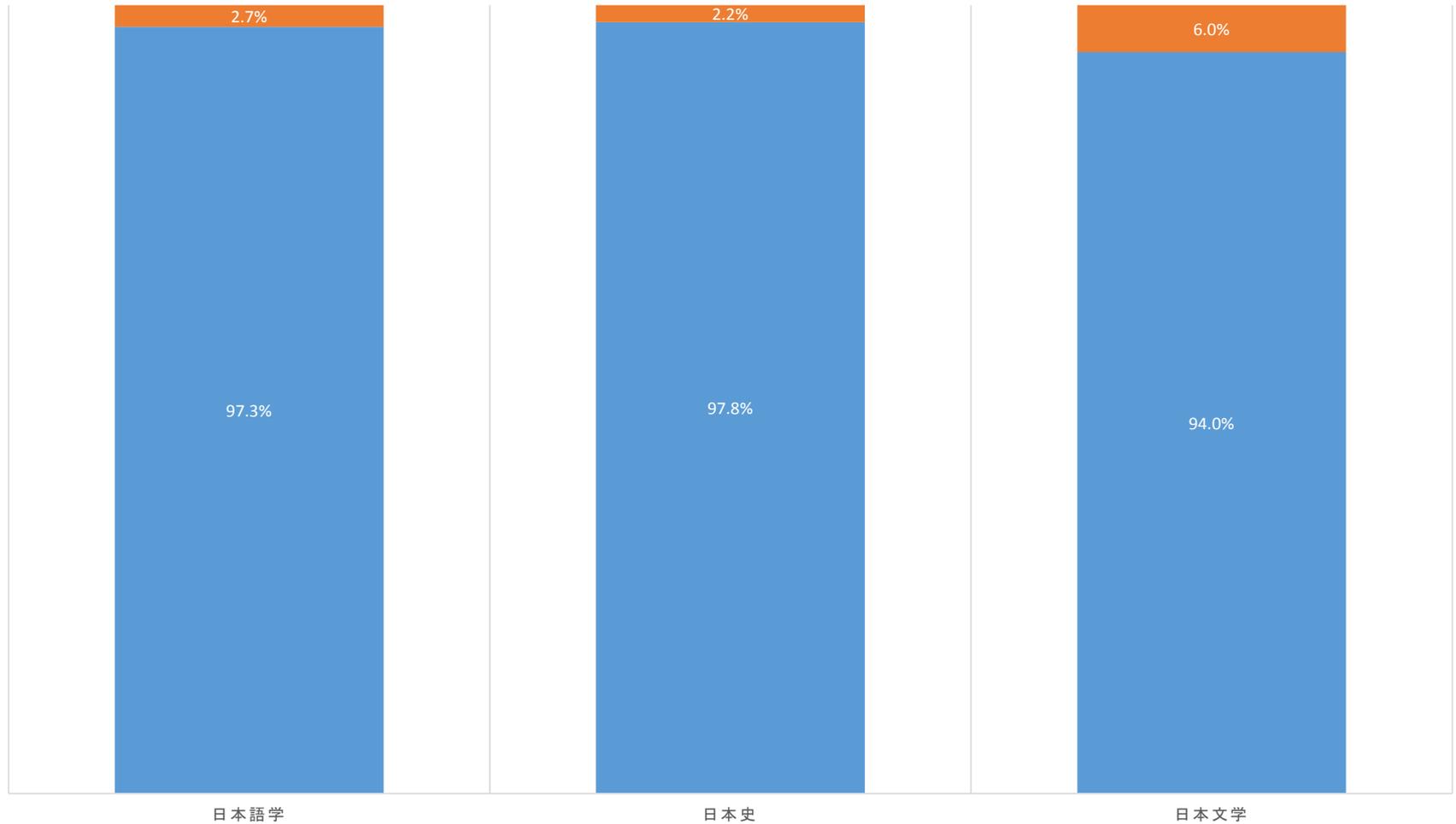


人文社会系の研究分野(科研費)

No	研究分野 (科研費)	No	研究分野 (科研費)
1	総合人文社会 地域研究 地域研究	29	社会科学 法学 公法学
2	総合人文社会 ジェンダー ジェンダー	30	社会科学 法学 国際法学
3	総合人文社会 観光学 観光学	31	社会科学 法学 社会法学
4	人文学 哲学 哲学・倫理学	32	社会科学 法学 刑事法学
5	人文学 哲学 中国哲学・印度哲学・仏教学	33	社会科学 法学 民事法学
6	人文学 哲学 宗教学	34	社会科学 法学 新領域法学
7	人文学 哲学 思想史	35	社会科学 政治学 政治学
8	人文学 芸術学 美学・芸術諸学	36	社会科学 政治学 国際関係論
9	人文学 芸術学 美術史	37	社会科学 経済学 理論経済学
10	人文学 芸術学 芸術一般	38	社会科学 経済学 経済学説・経済思想
11	人文学 文学 日本文学	39	社会科学 経済学 経済統計
12	人文学 文学 英米・英語圏文学	40	社会科学 経済学 経済政策
13	人文学 文学 ヨーロッパ文学	41	社会科学 経済学 財政・公共経済
14	人文学 文学 中国文学	42	社会科学 経済学 金融・ファイナンス
15	人文学 文学 文学一般	43	社会科学 経済学 経済史
16	人文学 言語学 言語学	44	社会科学 経営学 経営学
17	人文学 言語学 日本語学	45	社会科学 経営学 商学
18	人文学 言語学 英語学	46	社会科学 経営学 会計学
19	人文学 言語学 日本語教育	47	社会科学 社会学 社会学
20	人文学 言語学 外国語教育	48	社会科学 社会学 社会福祉学
21	人文学 史学 史学一般	49	社会科学 心理学 社会心理学
22	人文学 史学 日本史	50	社会科学 心理学 教育心理学
23	人文学 史学 アジア史・アフリカ史	51	社会科学 心理学 臨床心理学
24	人文学 史学 ヨーロッパ史・アメリカ史	52	社会科学 心理学 実験心理学
25	人文学 史学 考古学	53	社会科学 教育学 教育学
26	人文学 人文地理学 人文地理学	54	社会科学 教育学 教育社会学
27	人文学 文化人類学 文化人類学・民俗学	55	社会科学 教育学 教科教育学
28	社会科学 法学 基礎法学	56	社会科学 教育学 特別支援教育

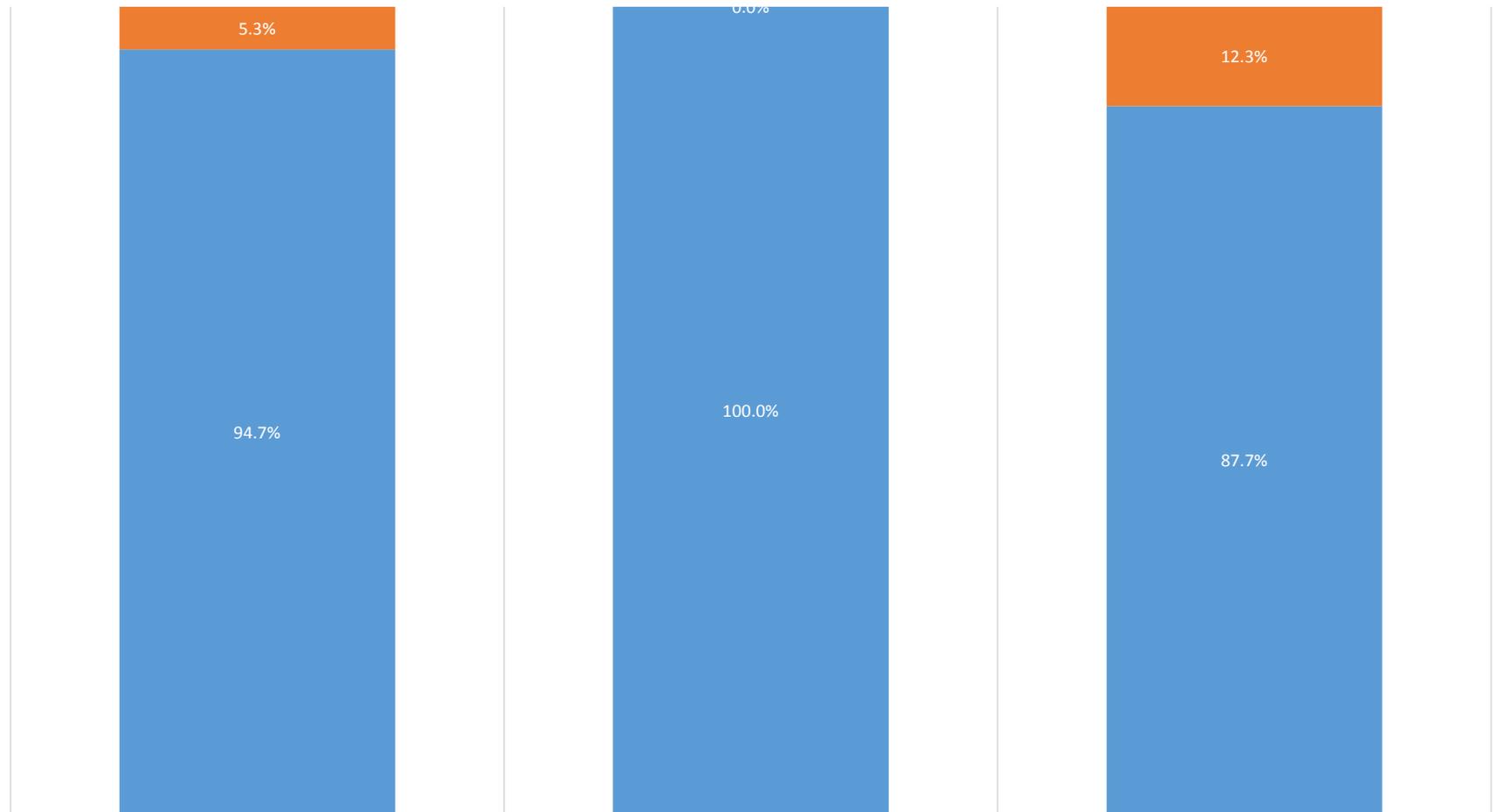
論文の日本語率（日本語学・日本史・日本文学）

■ 日本語率



著書の日本語率(日本語学・日本史・日本文学)

■日本語率 ■



日本語学

日本史

日本文学

雑誌・出版社の例(日本語学・日本史・日本文学)

雑誌	論文数	出版社	著書数
文藝言語研究. 言語篇	83	岩田書院	19
筑波大学留学生センター日本語教育論集	62	くろしお出版	14
学術講演梗概集	48	大修館書店	12
日本語学	28	凡人社	12
文藝言語研究. 文藝篇	27	吉川弘文館	10
筑波日本語研究	21	ひつじ書房	9
俳文芸	19	岩波書店	8
日本建築学会計画系論文集	16	思文閣出版	8
日本語教育論集	16	中央公論美術出版	6
近代史料研究	13	農山漁村文化協会	6
月刊国語教育研究	13	スリーエーネットワーク	5
稿本近代文学	13	清文堂	5
人文科教育研究	13	勉誠出版	5
〇〇大学▲▲部紀要	11	ペリかん社	4
徳川林政史研究所研究紀要	11	彩流社	4
日本語教育方法研究会誌	11	三省堂	4
地方史研究	10	山川出版社	4
日本語教育	10	ぎょうせい	3
日本歴史	10	研究社	3
国語と国文学	9	和泉書院	3
...
総計	1,163	総計	403

KURA NW GP

第6回 RA研究会セッション
人社系分野への研究支援
と研究評価
ーグッドプラクティスを探るー

京都大学URAネットワーク
人文社会系支援

20140917

京都大学 本部構内(文系)URA室
稲石 奈津子

部局や研究者のニーズ

Mission

大学としての研究戦略

プロジェクト
URA

単独部局
URA

複数部局
URA

本部
URA

部局URA

担当プロジェクト
の研究者

担当研究科・
研究所の研究者

担当研究科・
研究所の研究者

大学執行部
本部事務
全学の研究者

+

担当分野

Stakeholder

京大URAネットワーク構築事業 審査員コメント

(ex.本部構内(文系)URA室)

- ・人文社会科学全体のけん引役となるような活動が期待される
- ・将来的には人文社会系を包含するように、URAが研究活動を積極的に管理していくことを期待する

KURA NW

北部学術研究 支援室

理学研究科、農学研究科、基礎物理学研究
所、数理解析研究所、霊長類研究所、生態
学研究センター、野生動物研究センター、
低温物質科学研究センター、
フィールド科学教育研究センター

3

本部構内（文系） URA室

文学研究科、教育学研究科、経済学
研究科、経営管理大学院、人文科学
研究所、経済研究所

4

本部構内（理系） URA室

情報学研究科、エネルギー科学研究
科、生命科学研究科、地球環境学、
学術情報メディアセンター、男女共
同参画推進本部、原子炉実験所

2

医学URA室

医学研究科、医学部附属病院

2

学術研究支援室

25

吉田南URA室

人間・環境学研究科、物質－細胞
統合システム拠点

3

南西地区URA室

ウイルス研究所、再生医科学研究所、iPS
細胞研究所、薬学研究科、
東南アジア研究所、アジア・アフリカ地域
研究研究科、地域研究統合情報センター、
アフリカ地域研究資料センター、こころの
未来研究センター

4

2 工学研究科附属 学術研究支援室

工学研究科
CKプロジェクト

1

宇治地区URA室

化学研究所、エネルギー理工学研究
所、生存圏研究所、防災研究所

3

京都大学本部構内(文系)URA室

[ホーム](#)[お知らせ](#)[研究資金情報](#)[支援内容と実績](#)[URA室について](#)[お問い合わせ](#)[リンク](#)

研究資金の申請支援やプロジェクト立ち上げ支援、アウトリーチ活動など、本部構内(文系)URA室では、研究者のみなさんが必要とするサポートを行います。

NEWS & INFORMATION

[全て](#)[📅 イベント](#)[📌 URA室より](#)[📄 その他](#)[📄 一覧へ](#)

- 2014.08.01 [URA室より](#) [「民間助成財団の助成金獲得に向けて」\(2014.8.27-28\)開催のお知らせ](#)
- 2014.07.28 [イベント](#) [「学位プログラムをどうデザインするか? - 歴史学分野におけるチューニングの事例から -」\(2014.9.1\)開催のお知らせ](#)
- 2014.07.28 [イベント](#) [「ラーニングアナリティクスに向けた学習データ利活用に関する技術動向と大学教育ビッグサイエンスの可能性」\(2014.9.9\)開催のお知らせ](#)
- 2014.07.18 [イベント](#) [IDE大学セミナー「大学教育のオープン化―黒船かノアの方舟か―」\(2014.8.22\)開催のお知らせ](#)

文系の資金獲得状況 理系と比較して獲得できる 資金源の少なさ

RA-P53



「人文社会学系への支援のあり方」セッションを通して

京都大学
稲石宗洋子: 吉田地区URA室 神谷俊郎: 南西地区URA室 白井智哉: 学術研究支援室(KURA)

京都大学のURAネットワークは、学術研究支援室(通称:本部URA室)と、キャンパス各地に配された**部局URA室**からなります。部局URA室のうち、「吉田地区URA室」は、文学研究科、経済学研究科など、人文社会学系のみを担当するセッションです。また、「南西地区URA室」は、アジア・アフリカ地域研究のための4つの部局と、心理系研究のための1つの部局を担当対象に合んでいます。吉田地区URA室と南西地区URA室は、いずれも平成22年1月に発足しました。

京都大学URAネットワークは、人文社会学系研究・教育への支援を積極的に取り組んでいます。しかし、URAという仕組みは基本的に理系分野への支援を念頭にデザインされているので、支援方法やスキルがそのまま文系支援に活用できないことも多々あります。

そこで、京都大学URAネットワークでは、「人文社会学系支援タスクフォース」を立ち上げ、人文社会学系支援へのあり方について議論を重ねてきました。そして今回、全国の研究支援者が集まるこのシンポジウム・研究会の開催にあわせて、有志諸君にはより学びの機会が広がる人文社会学系研究・教育支援について、あらためて考えていただくということで、11月19日の「学術セッション」人文社会学系への支援のあり方を全国、実施することになりました。

京都大学
URAネット
ワーク

私たちが
やってきたこと
(2013年1月～)

プレアワード Pre-Award ポストアワード Post-Award

事務を
行いつつ
考えたこと

感じる「理系と文系の違い」

- ・ 研究に必要な資金の額が違う...文字通り桁が違ったり
- ・ ファンドの種類・数が違う...大型資金獲得のチャンスが少ない
- ・ 国際協力・発信に対する意識が違う...英語で国際ジャーナルに掲載する=研究成果という認識が、理系に比べて薄い分野も...あるいは分野によっては必要ない?
- ・ 業績数の算定方法が違う...数値に表れない業績はどどうする?(日本語で書いた一稿書など)
- ・ 研究スタイルが違う...チーム型vs個人型
- ・ 社会のニーズが違う...「産学連携」?「イノベーション」?
- ・ 研究推進スタイルの違い...研究室付秘書の存在
- ・ ところで、「文学」と「社会学」って一緒にいいの?

パネル
セッション開催
へ向けて

情報交換の必要性

- ・ 人文社会学系支援に特化したパネルセッションの開催...とにかく仲間が欲しい!情報交換がしたい!
- ・ 全国の人文社会学系専門のURAに声を掛けて集まってもらおう...と思ったが、いかにせん人数が少ない!
- ・ そこで、URAを名乗ってはいないが、文系部局で研究支援業務を行っている人(村下さん、山田さん)に参加して頂き、お話を伺うことになった

文系URAは何をすべきか、というコメントを頂戴!

講演RA-S06(パネル・セッション)「人文社会学系への支援のあり方」登壇者

- ・ 稲石宗洋子 京都大学 吉田地区URA室(主として経済、経営管理、文学、教育の研究科等担当)/URA
- ・ 村上善枝 東京大学 政策ビジョン研究センター/URA
- ・ 村下明子 大阪大学大学院 国際公共政策研究科/助手・研究支援室長
- ・ 山田敏子 大阪大学大学院 法学研究科/特任研究員・研究推進担当
- ・ 神谷俊郎(司会) 京都大学 南西地区URA室(主として地域研究系部局を担当)/URA

問題点を浮かび上がらせる

- ・ 競争的資金(申請数、採択率、獲得金額)をアップするには?
 - 個別研究において大型資金が必要ないのならば、支援の満足度を若手支援においたほうがよい?
- ・ 共同研究...ニーズは大型の学際融合研究、特に競争的資金に頼るものもある
- ・ アウトリーチ...若手からの発信よりも、組織のメンバーに参加するニーズ
- ・ 研究資源整備...研究費のアーカイブ化をサポート/過去の業績のデータベース化を始める/個人の活動データの集約方法の統一
- ・ 評価...理系のものではない、人文社会学系の評価項目を作る。図書館上調査(評価指標の一部として)/業績・賞状の可視化を支援する
- ...で、最終的な目標は?
- 研究者の負担をへらすこと...?
- 競争力ランキングをアップすること...?
- 人文社会学系の振興...?
- ...

.....同じ組織の同メンバーで議論していても煮詰まってしまっただけ
「でも、これって、本音?」
「こんなこと全部できるのか?」
「だれか話を聞いてくれ!特に学外の人!」

私たちは本当に役に立っているんだろうか? 自問自答しながら日々仕事をしています

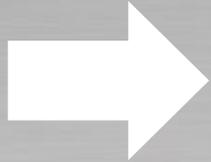
文理 学際 産学連携

実験心理学 脳科学 科学倫理 環境問題
環境エネルギー 医療経済 医療政策
アントレプレナー 情報通信

理系の資金源も可能性あり

科研費

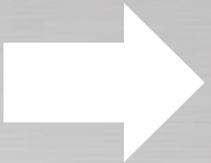
研究者や部局執行部の関心は最大



H25年度:全URA室で科研費WG



府省庁系補助金



課題がかなり
限られている！

JSPS

課題設定による先導的人文・社会科学研究推進事業

RISTEX

戦略的創造研究推進事業(社会技術研究開発)

民間助成財団助成金



人文系の研究にとって
貴重な資金源では？

University Research Administrator

本部構内(文系)URA室で申請支援を行います！

科研費 申請支援

平成 27 年度 科研費 募集開始

本部構内(文系)URA室 申請支援期間
～ 10 月中旬頃まで

申請支援の内容

- ・URA 室に支援を希望される研究者の方は、下記の連絡先にメール等でご一報の上、研究計画調査をお送り下さい。
- ・URA が科研費の審査委員の観点(評定基準)からレビューした結果をお戻しします。
- ・研究計画調査が書き上がっていない状態での相談(研究計画調査の組み立て・構造についてのご相談や、科研費に関する情報提供など)もお受け致します。

【お問い合わせ先】 本部構内(文系)URA室
e-mail : y-ura@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp Tel : 075-753-3525 (内線: 3525、83525)
居室 : 京都大学工学部土木工学教室本館 2 階 206 号室 担当 : 荒井、稲石、米満

外部資金申請支援のスキーム作り

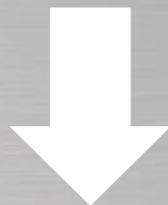
Step 1

情報整備



Step 2

知識共有



Step 3

個別申請支援

[雑について](#)[公募一覧情報を見る](#)[メール登録・解除](#)[公募情報一覧へ](#)[メールでお知らせを登録](#)

フリーワード



分野

理工系 医歯薬・生命系 人文・社会系 若手研究者対象 その他の研究領域 教育への支援事業

目的

研究 教育 派遣 招へい 国際 その他

金額

～



しめきり

公募中のもの 公募中のもの + 締め切りが過ぎたもの[この条件で検索](#)

📅 最近追加された公募情報

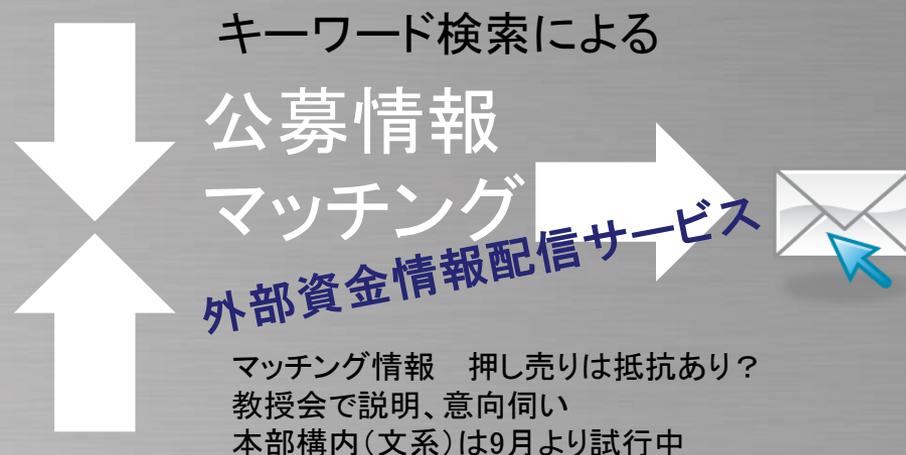
- 2014年08月05日 【厚生労働省】 労災疾病臨床研究事業費補助金
- 2014年08月04日 【総務省】 平成26年度戦略的情報通信研究開発推進事業（SCOPE） 電波有効利用促進型研究開発（第2回研究開発課題公募）
- 2014年08月04日 【独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構】 平成26年度革新的技術創造促進事業（異分野融合共同研究・補充研究）
- 2014年08月04日 【厚生労働省】 厚生労働科学研究費補助金 平成26年度 厚生労働科学研究費補助金 戦略研究「健康医療分野における大規模データの分析及び基盤整備に関する研究

KURA NW

外部資金獲得に向けた 情報整備

各種公募情報

京都大学外部資金公募情報サイト「鎗」
文系共通事務部HP掲載情報
+
文系助成財団一覧表 HP アーカイブ
文部科学省、他府省庁系補助金情報

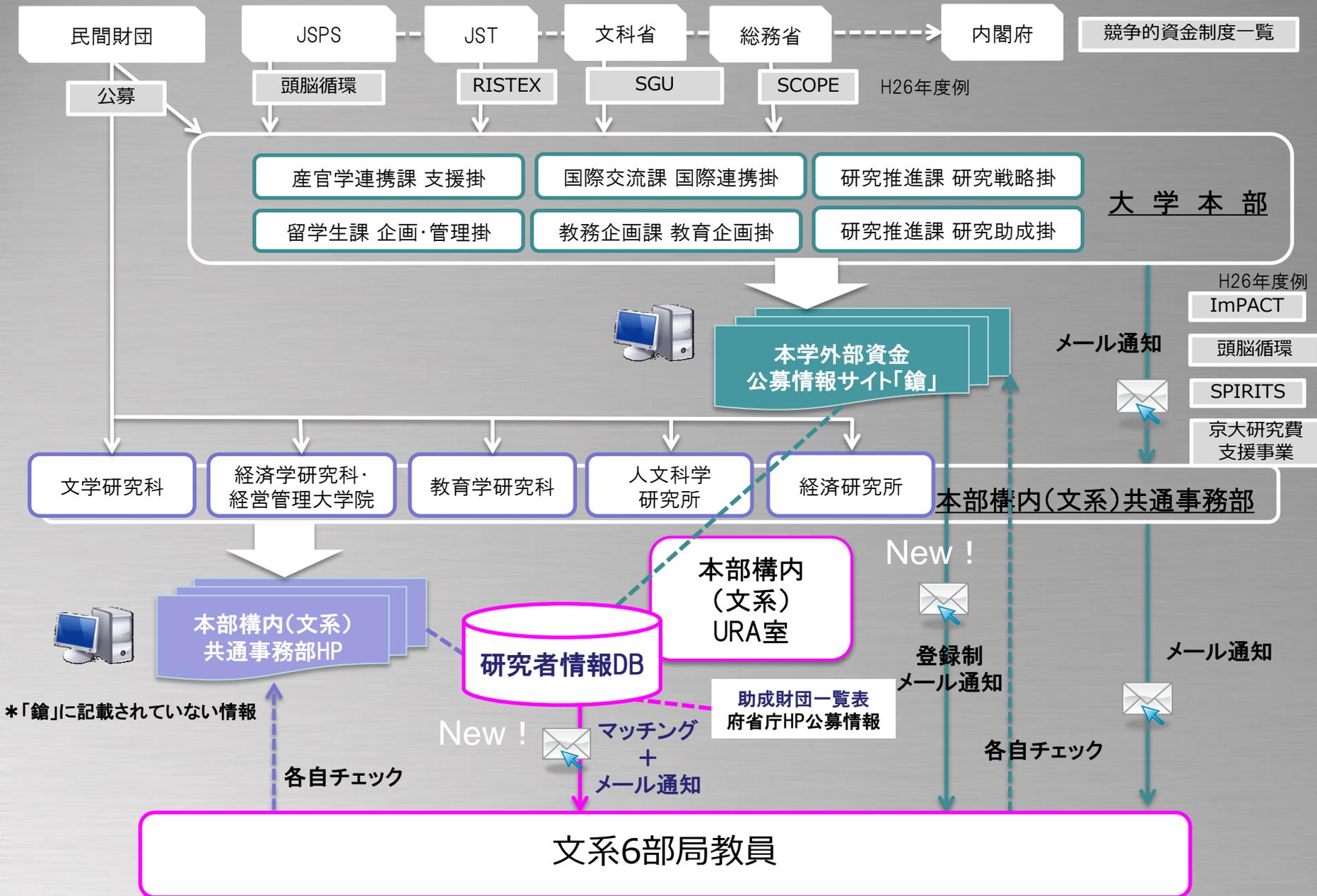


北部	本部構内 (文系)	本部構内 (理系)
医学	学術研究 支援室	吉田南
南西地区	工学研究科	宇治地区

研究者情報データベース

研究科・研究所のHP・パンフレット
京大教育研究活動DB
科研費DB
+上記に情報の無い場合
researchmap、Wikipedia

本部構内文系6部局ファンド情報提供ルート



民間助成財団に関する ナレッジ



若手研究者向けレクチャー

民間助成財団の 助成金獲得に向けて

2014年
8月27日[水]
28日[木]
各日 14:00 ~ 16:00

会場：京都大学 本部構内
(京都市左京区吉田本町)
法経済学部東館
B1F みずほホール

対象者：京都大学教職員、大学院生
定員：50名
参加費：無料

8月27日 (水) 14:00 ~ 16:00

14:00 ~ 15:00

民間助成財団と助成金獲得に向けての留意点

(講演 45分 + 質疑応答 15分)

講師：公益財団法人 助成財団センター プログラム・ディレクター 渡辺元氏

15:00 ~ 15:30

助成財団に教わる情報収集から申請まで①

(講演 25分 + 質疑応答 5分)

講師：公益財団法人 武田科学振興財団 研究助成事務局 部長 村田旭氏

15:30 ~ 16:00

助成金獲得の成功例と研究成果のアウトリーチ①

(講演 25分 + 質疑応答 5分)

講師：京大生存圏研究所 准教授 三谷友彦氏

(平成17年度・26年度 関西エネルギー・リサイクル科学研究振興財団

平成21年度 村田学術振興財団、平成24年度国際科学技術財団等 採択実績)

8月28日 (木) 14:00 ~ 16:00

14:00 ~ 15:00

研究計画とプロジェクト・マネジメント

(講演 50分 + 質疑応答 10分)

講師：京都大学 学術研究支援室 副室長・シニア URA 武藤誠太郎氏

15:00 ~ 15:30

助成財団に教わる情報収集から申請まで②

(講演 25分 + 質疑応答 5分)

講師：公益財団法人 サントリー文化財団 事務局長 浜橋元氏

15:30 ~ 16:00

助成金獲得の成功例と研究成果のアウトリーチ②

(講演 25分 + 質疑応答 5分)

講師：京都大学 文学研究科・アジア研究教育ユニット 特定准教授 安里和晃氏

(2012年度トヨタ財団国際助成プログラム 採択実績)

主催：京都大学 URA ネットワーク

申込・お問い合わせ：京都大学 本部構内(文系)JURA 室・稲石

e-mail: inaihi.natsuko.8s@kyoto-u.ac.jp

tel: 075-753-3525



外部資金申請以外の支援

国際ジャーナル投稿に向けた

人文社会系対象

英語論文改善ワークショップ

2014年 3月10日(月)・11日(火)・12日(水)
9:00-17:30 9:00-17:30 9:00-16:30

会場 3月10日(月)・12日(水)

本部構内 総合研究2号館 4階 アジア・アフリカ地域研究研究科会議室(447号室)

3月11日(火)

本部構内 総合研究2号館 4階 OPEN CONFERENCE(共同利用スペース)

人文社会系の若手研究者・大学院生を対象とした、英語論文執筆セミナー/ワークショップを開催します。シンガポール国立大学から講師をお招きし、講義+ワークショップの形式で、英語論文を書く際のノウハウや、英文ジャーナルへの投稿の際のマナーやコツなどを伝授していただきます。奮ってご参加下さい!

講師

Paul Harold KRATOSKA, Ph. D.

Publishing Director, NUS Press, National University of Singapore

Paul Robert NERNEY, M. A.

Senior Lecturer, Centre for English Language Communication (CELC), National University of Singapore

Suzan Lopez NERNEY, M. A.

Lecturer, Centre for English Language Communication (CELC), National University of Singapore

主催: 京都大学 学術研究支援室

南西地区URA室

吉田南URA室

吉田地区(文系部局)URA室

* 本事業は「平成25年度 研究大学強化促進事業」の一環として実施いたします。

協力: アジア・アフリカ地域研究研究科

受講資格

本学に所属する研究者・大学院生で、現在英語で執筆中の論文ドラフトをお持ちの方
※事前にドラフトを講師へ送付し、ワークショップ当日にそれを添削する形式で講義が進行します。

定員

16名 (応募者多数の場合、選考) ※3日間全てに出席出来る方を優先します

受講料

無料

応募方法

以下の情報を日本語と英語の両方で下記の申込み先までメールにてお送り下さい。
・氏名・所属・肩書き・email・電話番号・上記3日間のうち参加可能な日
また、英語で執筆中の論文ドラフトを添付でお送り下さい。

応募締切

2014年 2月24日(月) 10:00 ※ドラフトの送付を含む

申込み・問合せ

南西地区URA室 担当・神谷
kamiya.tosirou.3m@kyoto-u.ac.jp 075-366-7127(内線19-7127)

北部

本部構内
(文系)

本部構内
(理系)

医学

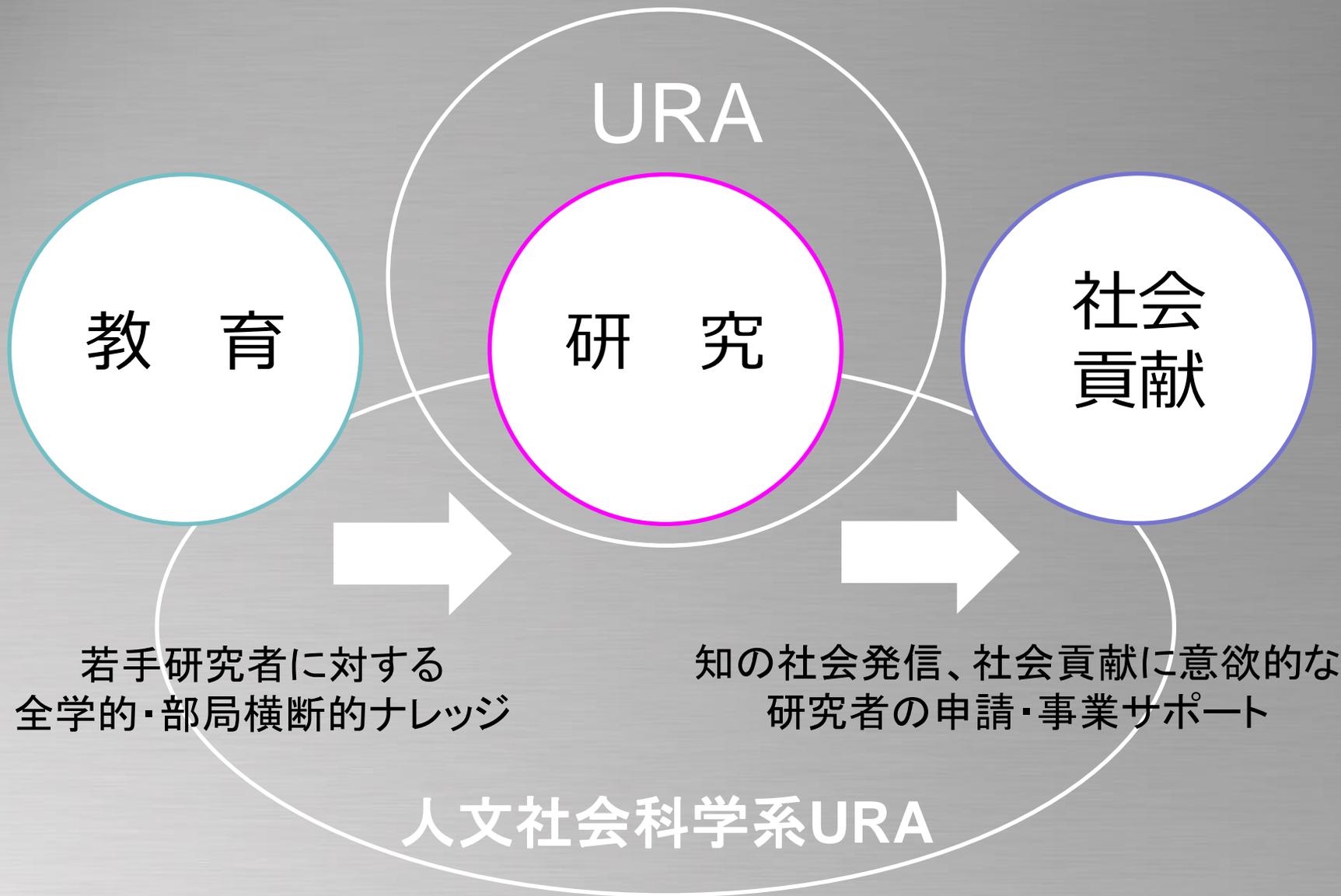
学術研究
支援室

吉田南

南西地区

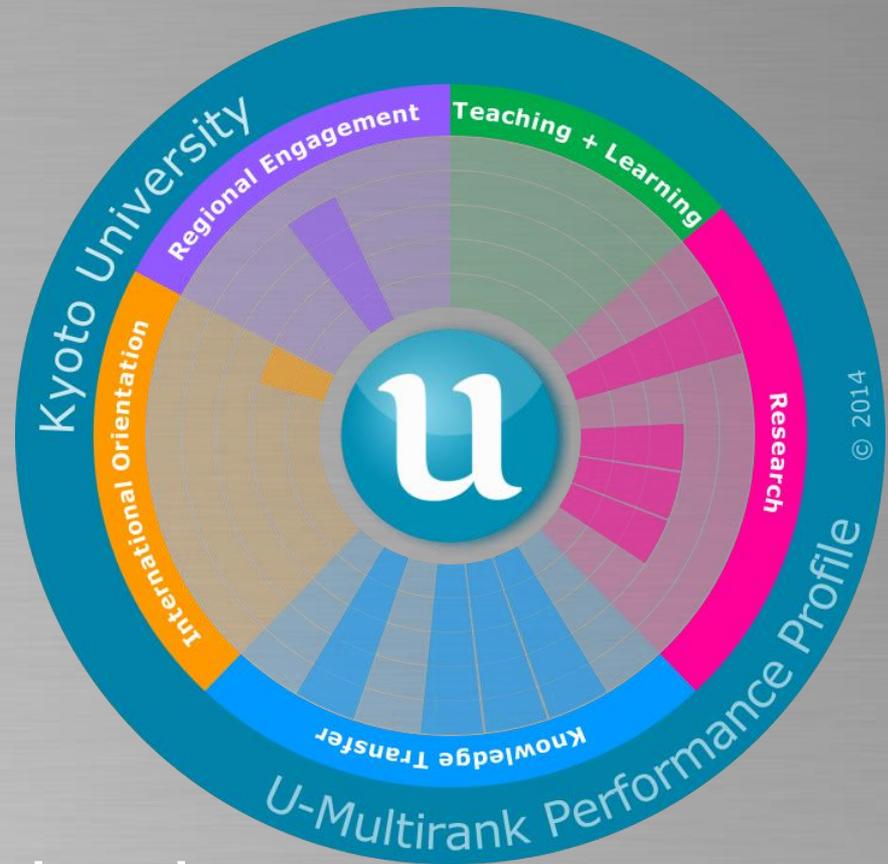
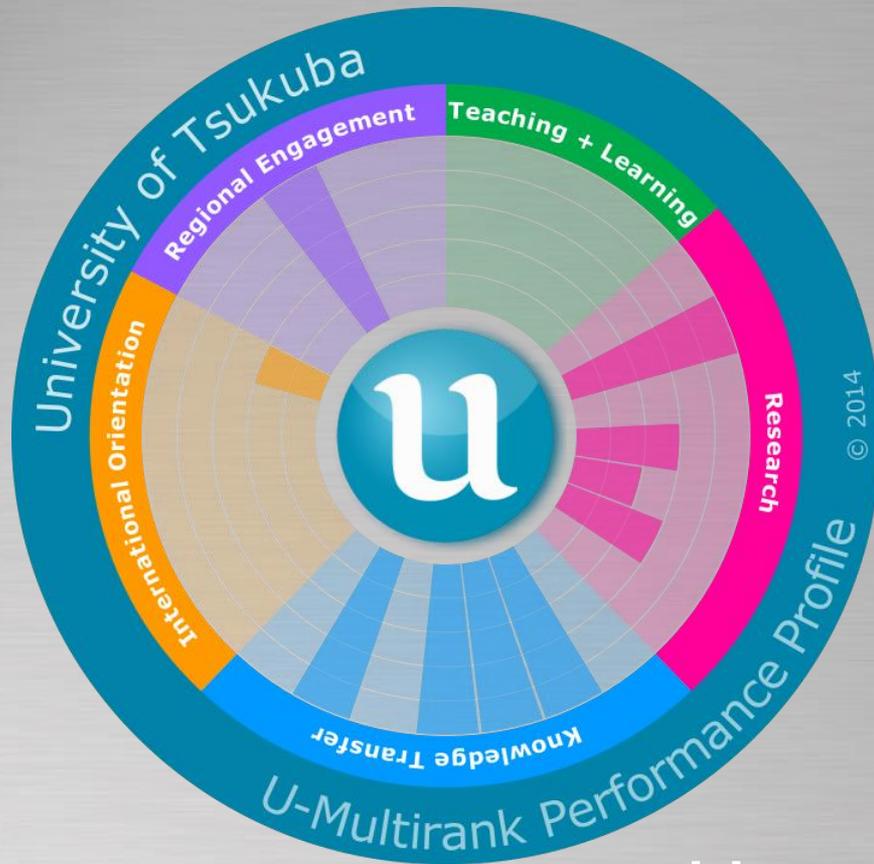
工学研究科

宇治地区



教育・社会貢献における評価指標

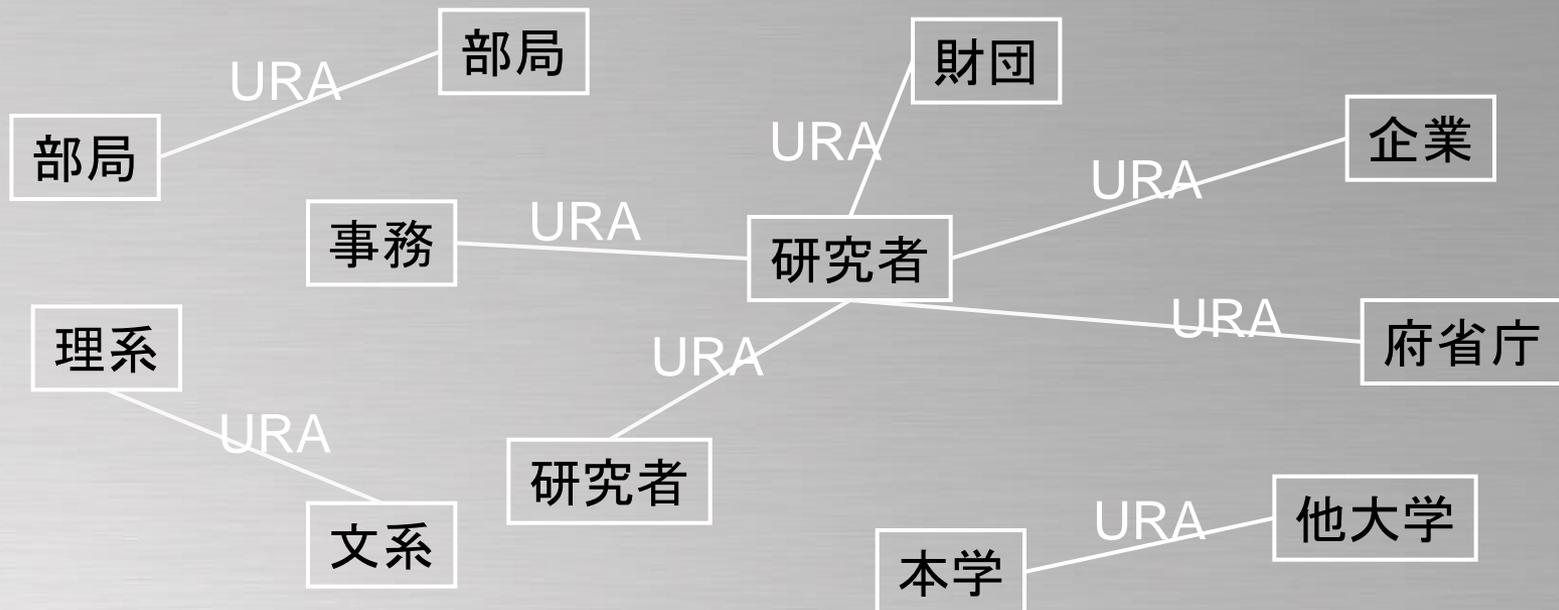
多元的マッピングとランキング



U-multirank

教育 研究 知識移転 国際性 地域貢献

URA GO BETWEENS



人社系研究支援ならではの プロセスを考える

2014年9月16日 第6回RA研究会セッション
「人社系分野への研究支援と研究評価～グッドプラクティスを探る～」

大阪大学大型教育研究プロジェクト支援室
URAチーム 川人よし恵



大阪大学

22世紀に輝く

調和ある多様性の創造



大阪大学は研究型総合大学

—3キャンパスに人社系15部局、教員620名(全体の20%弱)

7/16 研究科

- 文学研究科
人間科学研究科
- 法学研究科
経済学研究科
言語文化研究科
- 国際公共政策研究科
高等司法研究科

8/28 研究所・センター

- 社会経済研究所
- 国際教育交流センター
- 総合学術博物館
- コミュニケーションデザイン・センター
- 金融・保険教育研究センター
- グローバルコラボレーションセンター
- 日本語日本文化教育センター
- 知的財産センター

● : 研究推進または支援に特化した部署または担当者あり



文系と理系、URAチームの支援業務は異なる？

URAチームの業務内容例

主な業務例 ／支援対象	[研究戦略推進 支援業務] ・政策情報等の調査・ 分析 ・研究力の調査・分析	[プレアワード 業務] ・外部資金情報収集 ・申請資料作成支援	[ポストアワード 業務] ・研究成果の国際的発 信支援 ・アウトリーチ活動支援	[その他] ・FD ・SD
自然科学系 研究				
人文・社会科 学系研究				

⇒大阪大学URAチームは、**分野問わず**幅広く支援業務を行っています。

文系と理系、支援ニーズは同じ？

人文・社会科学系研究は(一般に言われていることとして)

- 多額の研究費を必要としない
- チーム研究より個人研究が多い
- 論文より著書の出版を重視する分野・研究者が少ない
- 言語への依存度が高い／「国際化＝英語化」とはなりづらい
- 教養教育等の側面で社会からの要請が大きい

大阪大学においては、

- 人社系研究者によるURA認知度は低い
- 本部と部局、部局同士の“距離感”や“温度差”が存在する

人社系に対する支援ニーズは理系ほど定まっていない。
その背景に、ステークホルダー間の意識の乖離(次頁参照)が...

大阪大学における 人社会系研究を取り巻く状況(“国際化”を例に)

今後10年で世界大学
ランキングトップ
100に10校ランクイ
ン!(国立大学改革
プランより)



文部科学省



世界大学ランキング!
新たな研究評価指標!
研究力分析ツール!

(教育・)研究の“国際化”に対するプレッシャー

大阪大学内では研究の“国際化”に対する様々な意見が…

国際的評価軸による本
学の研究力強化を!
(2031年の創立100周年時、
世界トップ10の研究型総合大
学を目指す)



大学執行部

予算が…



部局執行部

「国際化＝英語化」
一辺倒というのは
納得できない…



人社会系の個々の研究者

自分の研究成果は、
もちろん英語論文で発
信していきたい!



何から、
どうやって
支援すべきなの
?



研究支援業務
担当者



人社系研究ならではの支援プロセス

“国際化”に限らず、学内では様々な意見が…

STEP①

現況把握と意識共有

現況から多様なステークホルダーが共有できる
メリット(ニーズ)を探り、目標を設定する

業務例A
オランダ調査

業務例B
議論の場づくり

業務例C
「本」アウトリーチ

STEP②

具体施策で目標達成

具体的な支援業務を通じて、目標を達成する

何から、
どうやって
支援すべきなの



研究支援業務
担当者

人社系研究支援業務例

STEP1 現状把握と意識共有

A.オランダの人社系研究に関する動向調査

- 目的: 人社系も強いオランダの大学等での調査を通じた、
 - ◎学内のURAネットワーク強化(本部URA・部局URA)
 - ◎研究評価指標・人社系支援業務・融合研究推進等について情報収集
- 調査対象: グローニンゲン大学、ライデン大学、
アムステルダム大学、オランダ王立人文・科学アカデミー



5回の事前勉強会を経て、インタビューに臨む(2014年9月3日、ライデン大学)

● Standard Evaluation Protocol 研究評価ツールキット

- ・6年に1度、大学の全研究者を評価する際の標準的評価実施要領
- ・どの指標を採用するかは分野ごとの裁量で決定
- ・評価指標としての社会的インパクトの重要度増

● 若手研究者向け競争的資金獲得支援 プレアワード業務

- ・キャリアデザインを意識した支援
- ・ワークショップ、模擬ヒアリング、To Doリスト等のツール

● 大学毎に定めた融合研究重点分野 融合研究推進

- ・トップダウンとボトムアップの意向を擦合せる分野設定プロセス

人社系研究支援業務例

STEP1 現状把握と意識共有

B.学内での議論の場づくり

- 目的: 様々な議論の場を作り、現況把握や意識共有を図る
- テーマ: 学術政策動向、欧州における人社系議論、科研費 等

8部局の
教職員・
URA等が
参加



Horizons for SSH視察報告会(2013年10月)

文学研究科の
教職員が
対象



文学研究科FD講演会(2014年1月)

CSCD等の
教員が
対象



コミュニケーションデザイン・センター(CSCD)全学
FD研究会(2014年3月)

研究担当
理事補佐(理系)、
人社系8部局
の代表者で



研究担当理事補佐と人社系部局との懇談会(2014年8月)

人社系研究支援業務例

C.「本」という研究業績に着目したアウトリーチ活動支援

- 目的: 大阪大学の人社系研究を広く知ってもらう(社会的波及効果へ)

専門外の方との対話からゲスト研究者が刺激を受ける

- 概要: ゲストの編著書を入りに研究を紹介する「二頁だけの読書会」



- vol.1: グローバルヒストリー (2013年12月)
- vol.2: 人類学 (2014年4月)
- vol.3: 臨床哲学×サステナビリティ・サイエンス (2014年9月)

当日資料は特製ブックカバー
(裏に本の見開き二頁をコピー)



まとめに代えて

一人社系研究支援ならではのプロセスとは

STEP①

現況把握と意識共有

現況から多様なステークホルダーが共有できる
メリット(ニーズ)を探り、目標を設定する

STEP②

具体施策で目標達成

具体的な支援業務を通じて、目標を達成する

間を埋める・つなぐ
記録を残し、伝える
できれば 流れ・しくみを作る

時間をかけて
スキマをSchemeに…



ご清聴ありがとうございました

大阪大学 大型教育研究プロジェクト支援室
URAチーム 川人よし恵

kawahito@lserp.osaka-u.ac.jp



第4回URAシンポジウム/第6回RA研究会

人文社会分野への研究支援と研究評価
～ グットプラクティスを探る ～

英国の研究評価体制からの考察

2014年9月17日

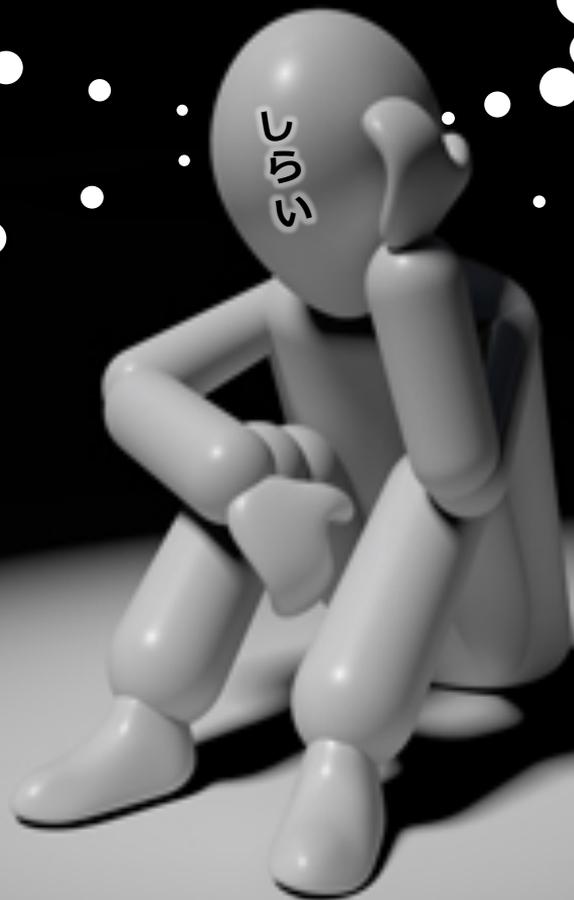
京都大学学術研究支援室
白井哲哉

2年後URAの
雇用財源は？

間接経費の
獲得が大事？

誰の何のため
の支援？

そもそも
支援？



人社支援って何をすれば良い？

自然科学系

1億円の研究プロジェクト

獲得支援をした場合…

間接経費 3000万円 ゲット！

人文社会科学系

100万円の研究プロジェクト

獲得支援をした場合…

間接経費 30万円 ゲット…

Research Development in RED

- 20名からなるRED内で最大のチーム
- 業務内容は研究資金の獲得支援
- 企業以外からの研究資金の獲得がメイン
- **学内の6つの部局に対して、このチームのメンバーは担当する部局が決められている**
- 各部局担当以外に海外ファンド担当が4名、学際融合担当が1名



Lorna Colquhoun

Research and Enterprise Policy in RED

■ チームは全部で7名、役割は以下の3つ

① Bristol大学の研究者の研究活動のデータを
集める（システムの構築・管理・運営）

② **大学, 各部署の研究評価に資するデータを作成**

→ Research Committeeで評価するためのデータを
各部署から集め作成。

特にREF（後述）に提出するデータの作成を担う

③ 大学の研究推進戦略のドラフトを作成する

→ Research Committee で決められる研究推進戦略の
ドラフトを作成している



Lesley Dinsdale

Research Excellent Framework (REF) 概要・背景



UK政府による研究の質を評価するシステム

- 2006年より、**学問領域間の違いに留意した研究評価と研究資金配分の見直し**を開始
- 2008年、2009年にパイロットとして研究費配分の基礎となる研究の質の評価の仕組みResearch Assessment Exercise(RAE)が実施
- 2010-2011 RAEの試行を踏まえて改訂された評価基準・方法 (REF) が発表・実施
- 2014年度から新たなREF2020が実施される

Research Excellent Framework (REF) 概要・背景



REFでの評価は…

- 評価基準や評価レベルの設定は毎年度検討される
- 定量的指標と専門家パネルによるレビューにより実施
- 専門家パネルは以下の4つの主要パネルに分類
 - Medical and Biological Science
 - Science and Engineering
 - **Social Science**
 - **Arts and Humanities**
- それぞれに対して、**Output** と **Impact** と **Environment** の評価指標が設定



REFでの研究評価

Output (65%)

- 研究のアウトプットの質を計るもの
- 論文の数など定量的なデータが評価される項目として含まれている
- これらの項目の設定は4つの分野ごとによって異なっている
- 全ての項目について、4段階の評価レベルが設定されている

Impact (20%)

- 国の政策や社会・経済に影響を与えた成果に対する評価
- 何がどのように影響を与えたのか、それを説明するストーリーを作成する必要がある
- REFで初めて盛り込まれた評価項目、REF2020では25%になる

Environment (15%)

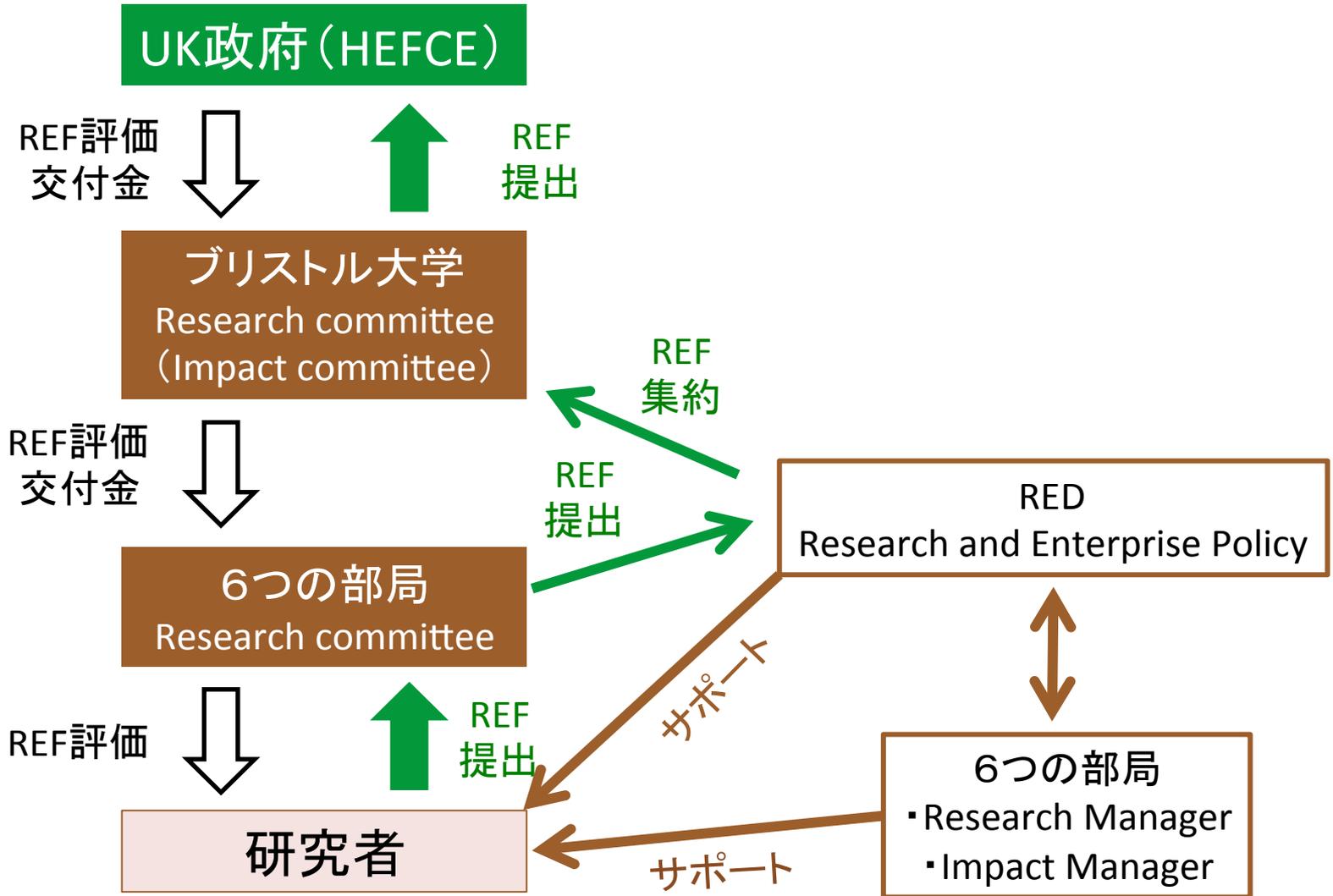
- 研究環境・設備についての項目、その研究の継続性についての評価



Output (Arts and Humanities)

- books (authored or edited)
- journal articles
- published conference papers
- exhibition or museum catalogues
- creative writing and compositions
- databases
- dictionaries
- performances and other types of live presentation
- designs and exhibitions
- films, videos and other types of media presentation
- software design and development
- advisory report
- the creation of archival or specialist collections to support the research infrastructure
- chapters in books
- working papers
- electronic resources and publications
- translations; scholarly editions
- curatorship and conservation
- grammars
- digital and broadcast media
- artefacts

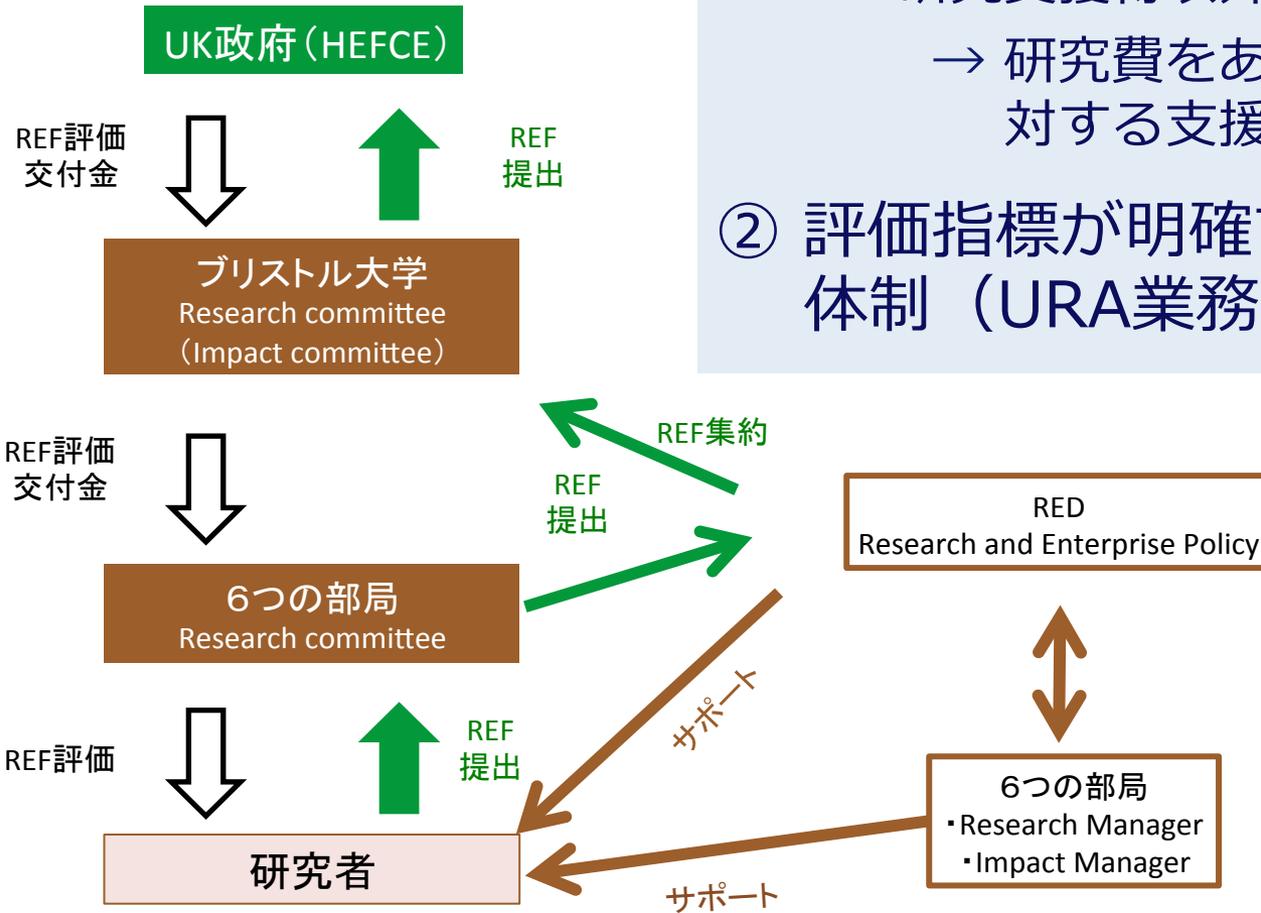
ブリストル大学における研究評価体制



ブリストル大学における研究評価体制

良い点 (私見)

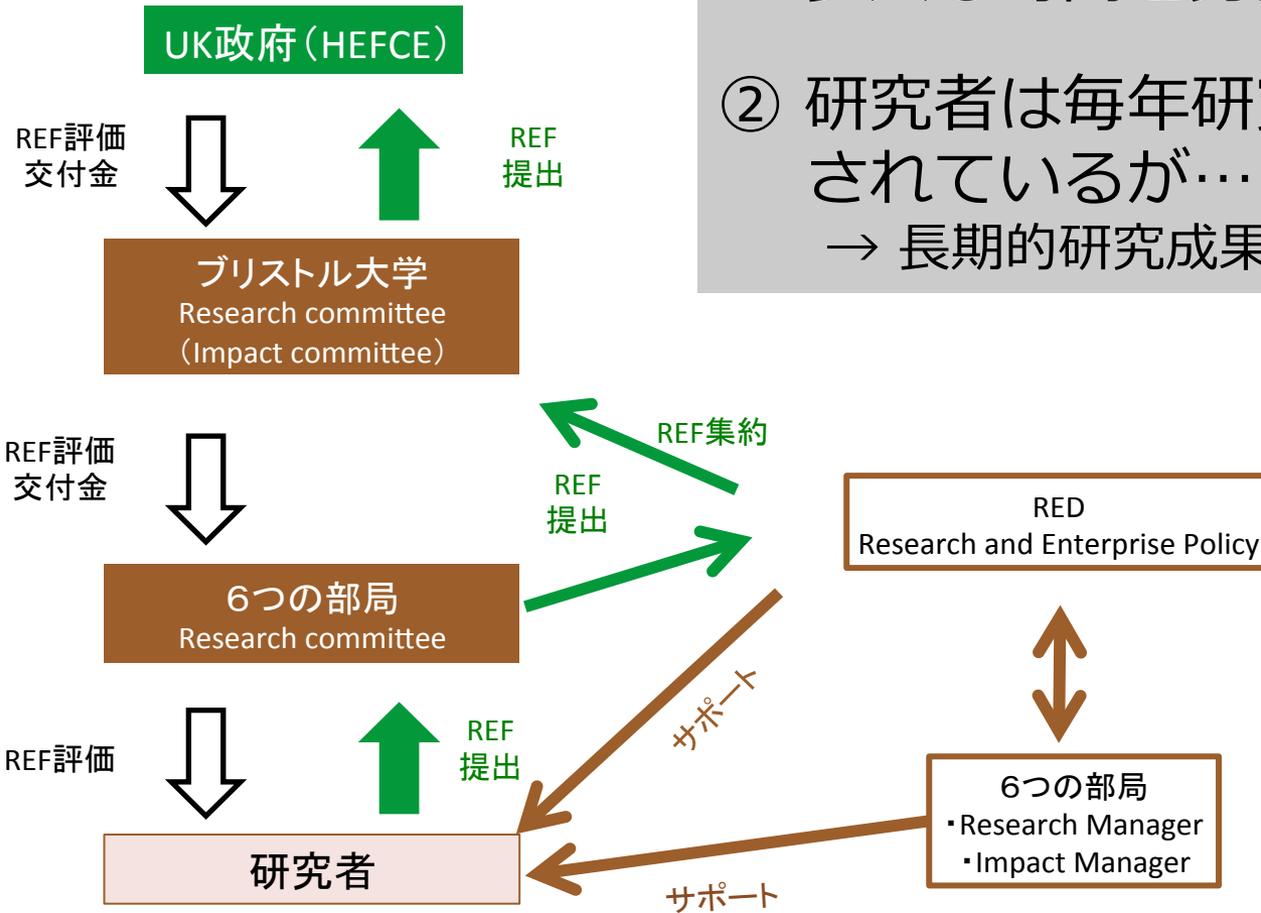
- ① 論文以外の評価軸がある
 - 研究費獲得以外の大学への貢献可能
 - 研究費をあまり必要としない学問に対する支援への需要
- ② 評価指標が明確であるためサポート体制 (URA業務) も明確かつ効率的



ブリストル大学における研究評価体制

問題点(私見)

- ① 「政府」も「大学」も「研究者」も多大な時間と労力をかけている
- ② 研究者は毎年研究成果の評価にさらされているが...
→ 長期的研究成果が評価されにくい





日本に同じシステムを導入できたとした場合

失ってしまう **「研究力」** はないか……